

# 平成28年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね

## 事業計画書（案）

前年度は施設職員全員が一丸となって日々のケアに力を入れ健康で長生きできる支援が行えたため、99%以上の稼働率を確保することが出来たため、今年度もこの状態を維持して行きたい。

また、要介護度の悪化が進む中、介護者への負担が増大している。労働安全衛生上、現在導入している見守り介護ロボットだけではなく、腰痛予防に効果のある介護ロボットの導入を検討やメンタルカウンセリングの導入、リフレッシュ休暇の取得を行うことで介護者の負担軽減し働きやすい職場作りに努めて行きたい。

介護の質向上を目指し、利用者様に安心感、信頼感を持っていただけるようなコミュニケーション力の向上に努めたい。

人員不足から以前は積極的に行っていた外出レクリエーションの実施が難しくなってきた。人員を増加した上で閉じ込めない施設環境に努めて行きたい。

介護福祉士の取得にむけて、必須研修となった実務者研修の費用を施設が半額負担したり御立での勉強会に参加を勧めることで資格取得を推進して行きたい。

管理栄養士の人員不足により栄養マネジメント加算が取得できていない状況にある。人員が確保でき次第、再取得に努めたい。

### I. 科学的介護の実践について

1. 施設全体で日中おむつ外しを取り組むことで、日中おむつ率0%を継続する。また、一時的におむつを着用することになったとしてもトイレでの排泄が再度適うように努力する。
2. 統計を出し視覚化することによって介護の質の向上を目指す。
3. 出ている症状の原因を検証し対策を施すことでより効果的なケアを実践する。

### II. 職員教育・組織体制作りについて

1. 個々の役割を明確化することで組織としての運営を効率よく行う。
2. 情報共有の効率化として介護支援ソフトの活用を行う。
3. 定期的な求人活動を行い、非常勤職員の雇用を行い人員確保に努め、過不足のない人員体制を構築し職員・利用者負担が生じないように努めたい。
4. 新規採用職員へのマンツーマン指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習

得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境作りを目指す。

5. 職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるよう、また、各ユニットのチーム力を強化する為、ユニットリーダーを中心に月1回のユニット会議に加え緊急時のユニット会議を設ける。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、リーダー会議を継続していく。
6. 定期的な業務の見直しを行い、マニュアル化することで経験の浅い職員でも対応できるような体制を整える。ただし、単なるマニュアル化では質の向上は期待できないため、基準の範囲内で個人の判断ができるものを構築する。
7. 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員受験資格取得者に対し、サンライフ御立での勉強会への参加を勧め、資格取得をサポートする。
8. 平均要介護度が4.45と重度者が多い為、重介護に対する介護職員の腰痛を予防するため介助方法の検証や体操、腰痛ベルトの貸与、介護ロボットの導入を行う。
9. ヒヤリ・ハット・事故報告を定着化させることで気付き能力を向上、また報告書をもとに原因を追究し対策をとることで事故予防や再発予防に努める。
10. 虐待は介護者と認知症高齢者の間に上下関係ができてしまうことで生じる可能性がある。ニックネームの使用禁止や言葉遣いについての指導、認知症についての研修を行うことで認知症高齢者の理解を図り、職員・利用者間において上下関係の構築を予防し虐待の発生を防ぎたい。
11. 家族へ看取り推奨を行うことで自然な形での最期が迎えられるような方向に進め、看取りが特別なものではなく当たり前に行なえるような体制を整える。また、看取りについての研修に参加しスキル向上を目指す。
12. 既存のマニュアルの再確認と再検討を行い。現在の実情に合わせたマニュアルへ更新を行う。
13. 記録の再確認を行い、記入漏れや間違いがないかを確認する。
14. 人員を確保して外部研修への参加回数を増加する

#### IV. 地域貢献について

1. 2か月に1回の運営推進会議を開くことで施設の情報提供し地域の方や民生委員、家族、利用者との関係を築く。
2. 地域の方と交流をもつため地域行事へ参加する。
3. 広報誌を自治会の回覧に入れてもらうことで情報の公開を図る。
4. 地域の防災訓練に参加することで災害時の連携体制を整える。

## V. 介護統計について

### 平成 28 年度介護状況目標

項目		平成 28 年 2 月末状況	平成 29 年 3 月末目標
日中オムツ使用率		0 名 (0%)	0 名
入浴統計	特浴	0 名 (0%)	0 名 (0%)
	リフト付個浴	29 名 (100%)	29 名 (100%)
	個浴	0 名	0 名 (0%)
食事形態	普通食	20 名 (69%)	22 名 (76%)
	刻み食	0 名	0 名
	極刻み食	8 名 (28%)	7 名 (24%)
	ミキサー食	1 名 (3%)	0 名
	経管栄養	0 名	0 名
褥瘡者		0 名 (0%)	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		0 名 (0%)	(100%)

※看取り介護実施率=看取り介護実施者/全退所者（急死を除く）

## VI. 事業運営について

毎日のバイタル測定や健康チェックを行うことで疾病の早期発見及び治療につながり、疾病入院の予防を図りたい。また、見守り介護ロボットの活用による事故による骨折入院の予防、サンライフ御立ショートステイやサンライフ土山のショートステイを利用して頂き長期入院や急な退所による入院・空きベッド数を減少することで稼働率 99%以上を目指す。また、パッドの種類や使用方法の検討で失禁を減らしおむつ代のコスト削減を実施する。

加算については栄養マネジメント加算の取得が出来ていないため人員が確保出来次第、再取得を目指したい。

## VII. 年間収入予想（平成 27 年度 2 月～3 月は予想）

（単位 千円）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度	12,244	12,697	12,308	12,755	12,900	12,461	75,365
平成 28 年度	12,326	12,710	12,326	12,710	12,710	12,326	75,108
年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度	13,144	12,403	12,748	12,844	11,948	12,710	149,977
平成 28 年度	12,710	12,326	12,710	12,710	11,345	12,710	149,627